神成

発行：救いの光教団
編集：神成編集室
東京都世田谷区北沢
（〒155-0031）　2-22-10
電話　代表03(3413)0123
http://sukui.jp
毎月１回１日発行
購読料　１部80円
（会員の購読料は会費に含む）

2025
No.637
９月号

―大経編―

大神の深き仕組は智慧や学
　などもて判るものにあらなき
小さなる人の眼に映らめや
　大天地をただす仕組の
大神の深き仕組は如何ならむ
　聖といへど知る由もなき

御光筆『大光明如来御尊像』（教団所蔵）

落款　暉月
落款印　光明遍照
　三界歸一
昭和辛未秋（昭和六年）

◎教団方針
信徒よ速やかに目覚めよ、
それは光を受け、邪を捨て、光を授け、
正に生きる事である

◎方針のみちしるべ
（一）みつめなおそう明主様の心
（二）つらぬきとおそう明主様の心
（三）教団綱領を尊び実践する
（四）信仰継承は家族と家庭円満から

神言霊

世界画の完成

私の各論文は前人未説のものが多いが、之は特に破天荒のものであるから、そのつもりで読まれん事である。

そもそも現在あるところのあらゆる既成宗教は、それぞれの特異性があって決して同一のものはない、という事は深き神の経綸によるのであって、今日までその意味を説いたものはないようである。本来なれば今までに唯一の立派な宗教が生まれていたならば、人間はそれに満足し、帰趨に迷う如き事はないはずである。随而、何ら論争の必要もなく、宗教の種別も分派もなく、教義の異端もなく、和気藹々裡に一目標に満足し、実に理想的であるに拘わらず、今日の如き混沌たる世相は生れないはずであるに拘わらず、そうでないのは、実は、大いに意味があるのであって茲にその神意を闡明してみようと思うのである。

世に計画という言葉があるが、この画という文字に深い意味がある。という事は、今日までの既成宗教は、世界的大名画を描くに必要なる幾多の絵具であったのである。ところが時期到来いよいよ多彩な画面を纏める事となり、構図も理想通りのものが出来上り、今や大画伯が最後の腕を揮うべき直前となったのである。

勿論画題は地上天国であり、画伯は誰あろう偉大なる救世神霊である。随而現在までの物の観方では、この雄大なる構想の一部さえも窺知する事は容易ではないのである。

以上は宗教方面についてであるが、それに伴って他のあらゆる思想文化といえども、地上天国完成へのそれぞれの使命をもって、歩調を揃えての前進が今や始まらんとするのである。実にこの事を思う時、吾等は血湧き肉躍るの感なくんばあらずで、この千載一遇の好機に生まれたる光栄を惟い、大経編に参加せるこの歓びを神に感謝する次第である。

（昭和二十五年十月二十五日）

信徒との面会に向かわれる明主様
（昭和二十五年九月・箱根神仙郷）

教団綱領の学び

明主様の教えを心に誓い
光をまくばり 救いの業を
普く世にひろめます（全五回）

【第二回】明主様の教えを心に誓い

御在世中の「御逸話」より明主様の御心を学ばせて頂きましょう。

① 形はいかにも相談のようだが

ある日、ある教会長が、明主様のところへ何か相談なのか、お伺いに来られました。その時私（布教師）は明主様のお側でお原稿の整理をさせて頂いておりました。

明主様は書きものをなさりながら、その教会長の話を聞いておられましたが、明主様が最後に、『あぁ、そうすればいい。』と仰ったその御言葉だけが、私の耳に入りました。教会長は、「では、そういたします」と言って帰られました。

その後、明主様は私に、『さっき、私が言っていたこと、おまえにわかったか。』と聞かれます。私は何も聞いていなかったので、「わかりません」と申し上げました。

すると、明主様は、『そうだろう。私にもよくわからなかった。だが、あの人は、すっかり自分で計画を立てて、それを私に話に来たようなものだ。だから、〝そうすればいい〟は承諾させに来たに過ぎないのだ。形は相談のようだが、実は承諾させに来たようなものだ。だから、〝そうすればいい〟と言ったのだ。そうしたいと言うから、そうしたらいいと言ったのだ。』と笑って仰いました。

私どもが御神業をさせて頂く場合、こういうことを知っておかなければならないと、気がつきました。

② 『神言霊』のいい加減な頂き方はだめ

明主様は、お原稿をお書きになられる場合、何度も何度も御推敲になったと伺っております。多い時は二十回以上も御推敲になったと伺っております。それくらい『神言霊』は、心魂を打ち込んでお書き頂いたものであることを私どもは念頭に入れて、『神言霊』に触れさせて頂くことが肝心であります。

何か私どもに粗相がありますと、よく明主様からお叱りを頂きましたが、――特におそばの奉仕者たちは始終でした――その場合、きまって明主様は、『『神言霊』を読んでいるか。』とおたずねになられました。

そこで、「はい、読んでおります」と申し上げると、『それでいいのだ。失敗も大事なことのひとつだ。』と仰せられます。「はぁ、え、一回か二回です」と言葉をにごし、『神言霊』の頂き方がいい加減になっておりますと、『それじゃ、全然読み方が足りない。』と大変なお叱りを頂いたものです。

（役員）

③ 失敗も大事なことのひとつ

明主様はいつも、『私がやれと言ったらすぐやるのだ。』『私の言うことを、そのまま行えばいいのだ。それが教えだ。』と仰っていました。

「失敗しました」と申し上げると、『それでいいのだ。失敗も大事なことのひとつだ。』と仰って下さいます。

そのころ、私（布教師）は明主様から叱られている人を見て羨ましいと思いました。それは親身になって教えて下さっているのだということが、しみじみ分るからです。

（布教師）

④ 『神言霊』もこちらに智慧がなければ

『『神言霊』は身魂相応に受け取れる。』という御言葉がありますが、『神言霊』は真理である以上、（真理とは道であり、神の律法でもあり）無限に深いものでありますから、こちらの理解程度に受けとらせて頂けるのであります。

ちょうど、美術品を見る鑑識眼と同じです。いくら立派なものでも、これは観る人の理解程度にしか受け取れないものです。このことについては、いまでも、まざまざと思い出すことがあります。

それは夜遅くでしたが、明主様にご挨拶に碧雲荘へ伺った時のことです。ご挨拶がすむと明主様は、後ろの床にかかっている掛物をふりかえられて、『これはどうだい。』と仰いました。

絵のことは何も分らない私は、ハッと緊張して床の一幅を眺めましたが、さて、どう申し上げたらよいものか、さっぱり分りませんので、ついに、「よく分りません」と申し上げましたら、明主様は、『豚に真珠だね。』とお笑いになったことがあります。

あとで、それは速水御舟の名品であったことが判りましたが、『神言霊』が智慧正覚に応じてとれるということは、このようなことではないかと思います。

『美術品も、一級品を多く見ることが鑑識眼の上がる秘訣。』と仰ることと同一ではないかと思います。

（役員）

⑤ 失敗も『神言霊』拝読の不足から

明主様は、いつもぴったりと神様の方へピントを合わせられ、一分の隙もない、充実した状態で御神業をしておられましたから、私ども奉仕者が、少しでもピントはずれなことをしていると、ご注意を頂きました。

そういう時、決まって申されるのは、『入信して何年になる。誰から『おひかり』を頂いた。布教していたか。』と信仰経歴をおたずねになるのです。

そして、入信して日の浅い（一年ぐらい）場合なら、『まぁ、しようがない。』と寛大な処置をとられますが、「入信して五年になります。布教しておりました」などと申しますと、『五年間、何を信仰していた。』ときつくお叱りになり、結局、『私の言っていること、行っていることは、みんな私の本に書いてあるんだから、おまえたちが失敗するのは、読み方が足らんのだ。もっともっと読め。』と申されるのです。

明主様はいつもそういう態度で、御生活をしておられましたから、われわれも、明主様が神様にピントを合わせておられたのを、見習わせて頂いて、明主様にぴったりとピントを合わせて、御用させて頂いておりました。

（側近奉仕者）

感謝奉告

夫婦で三代続く機織り業、主人が作業中に転倒するもとっさの行動で大難を小難に。日々の感謝と祈りを忘れず、楽しく教会へご参拝。

桂巻　佑己子〈滋賀教会〉

私のところの家業は、麻織物の〝近江上布〟を小巾の織機で織り上げ神社、仏閣へと納めておられる得意先へ納品しております。昔は四、五人の織り子さんが来てくれておりましたが、今は主人と二人で三代目を継ぎ、後何年も続けられない年代をむかえていますが、小巾の機械が十四台動いています。

滋賀教会

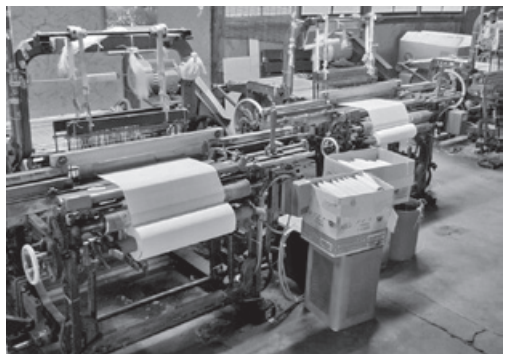
昨年（令和六年）の暮れの事です。機械と機械の間は一メートルで、下はコンクリートです。その両側の機械が動いている間に主人が何もないのにつまずいた様にうつぶせに転倒してしまいました。二十年前の脳梗塞の後遺症で右半身に力が入らないせいもあったにもかかわらず、機械の調節と直しをしていての事でした。もちろん左右の機械は動いています。すぐにとめるより、主人が転倒した所から起き上がるときが危ないと私は思い、動いている機械を背に向けて両手を広げて主人が起き上がるのを支え、場所を離れるのをみてから機械を止めにいきました。そうでないと起き上がり方を一つ間違えたら頭を打つか、手足に機械が当たるかで、今考えただけでも鳥肌がたちます。転倒時のひざの痛みがあるようでしたが、今はだいぶ回復した様子で仕事も変わらずしております。大難を小難にと御守護を頂き感謝しております。

私たちは、朝拝には一日の無事を、夕拝には一日の感謝の参拝をさせて頂き、明日はささいな事でもいいので、どのような御恩返しをさせていただこうかと思いつつ、主人と一日一日の有難みに手を合わせております。私たち夫婦が三代目を引き継いだ時が入信の年で、おそらく四十五年ほどになると思いますが、今は施設に入所している叔母の浄化がきっかけで明主様の事を知り、大きな奇蹟を目の当たりにして、叔母と主人と三人で入信させて頂き、今日まで明主様の御守護のもと、日々を過ごさせていただいております。教会長先生、光導所長さん、信者の皆さんから色々なお話を聞かせていただいたり、またお話をさせてもらったりと、その有難さをかみしめつつ、楽しく教会に参拝をさせていただいております。

日頃の感謝を忘れず、これからも神様に守っていただける自分になるにはどうしていけば良いのかを考えながら、これからも自分なりに精進させていただこうと思います。

大光明・明主様、日々の御守護誠に有難うございます。

光守様、有難うございます。


工場内の様子
（御主人はこの機械の隙間で転倒したものの御守護を頂いた）

感謝奉告コメント

近江上布は上品な絣（かすり）模様が特徴で手間がかかることから、「幻の上布」と呼ばれ、麻織物の最高級品として知られているようです。そのような貴重な機織り業を三代にわたり受け継いでおられるのは、素晴らしいことだと思います。

桂巻さんに伺いますと、工場では十四台のうち半分が稼働しており、この時期はクーラーも無く扇風機だけで暑くて思うように作業がはかどらないとの事ですが、お得意先様などからは、やめないで欲しいと言う声もあり、昔ながらの機械で滋賀県の伝統工芸品が織られていることが珍しく、九州、神奈川のアバレル会社からも見学に来られるそうです。

機織りの機械は大きな歯車がかみ合わさっているなど危険なところもあります。御主人はその機械の間で転倒されたようですが、本当に一つ間違えば大きなケガにもつながりかねない状況であったと思います。その後の対応も障害なく出来た事は神様の御守護ではないかと思います。日々の朝夕拝のお話もされておりますが、まさに感謝報恩の行いを実践されておられ、その積み重ねも今回の御守護につながっているのではないでしょうか。また、想念というのも大切なもので〝楽しく教会へ〟という想いも良い巡りを生み出す事につながっているのではないでしょうか。

扇面
「菊の香の清きは秋の心哉」
明主様　筆

トピックス

明主様の御遺作、浜松教会へ

七月から二ヶ月間にわたり明主様の御遺作展示が浜松教会にて行われた。予め本部に申込みを行い、五点の御遺作をお借りしての展示となり、礼拝堂、玄関ホールなど信徒の目に触れやすい所への展示が行われた。

信徒からは「お光がすごい。素晴らしい！」といった声も聞かれ、山田教会長からは展示の嬉しさと感謝の言葉が寄せられた。

礼拝堂の展示の様子

信徒が集う空間への展示

玄関ホールには『誠』の御光筆

岡田茂吉師の自然農法

水田除草とNPO無肥研視察が行われる

六月に引き続き七月も伊那水田の除草作業が行われました。例年ではこの時期の後半から夏の暑さが本格的になるが、今年は七月初めから非常に暑く、七月六、七日にかけて行った除草作業では暑さにより倒れてしまうのではないかと思う程辛い作業となった。また、七月二十五、二十六日に行った今年最後の除草作業では、例年では取り残してしまった草を少量抜き取る程度であったが、今回は時期が遅いためか、或いはこの暑さで雑草の生育が旺盛になったことが原因なのかは定かではないが、大きく成長した雑草がとても多く生えており、作業を終えるまでにかなりの時間を費やした。しかし、そのお陰で水田が奇麗になり、良い状態で稲刈りの時期を迎えることが出来た。

猛暑の中終盤をむかえた除草作業

NPO 担当者による水田視察の様子

視察後に高評価を受けた水田の稲は順調に生育している

また、七月六日には、救いの光教団が無施肥無農薬栽培について指導を頂いている、ＮＰＯ法人無施肥無農薬栽培調査研究会の担当者三名が伊那水田の視察に訪れた。毎年のこの時期の視察は技術的指導や情報共有の貴重な場となっている。視察は自然農法担当の小林、戸塚両教師による説明を受けながら行われ、稲の生育状況や雑草の生え方や植生などの様々な話が行われた。現在、全国で所属している米農家の共通の課題は水田除草であり、手入れが疎かになって雑草が沢山生えている水田や、最新式の除草ロボット（試作段階）を導入した農家、或いは自分で除草機械を改良している農家など様々な情報を得る事ができた。その中でも伊那水田は奇麗に手入れされている水田であり、毎年の収穫量も良いと、お褒めの言葉を頂くなど高評価を頂いた。

こうして、水田作業の山場は過ぎ、稲刈りを待つのみとなった。奇麗な水田を維持管理出来ているのはやはり多くの方のご協力があっての事であり、改めて心からの感謝を申し上げる。

十月慰霊祭・大先生五十五年祭のご案内

十月慰霊祭とともに教団の基を築かれた大沼光彦先生（大先生）の五十五年祭が執り行われます。

◎祭典日　令和七年十月十日（金）十時　開式

◎参拝所　東京本部、各布教拠点（本部よりライブ配信）

VEGETABLE OIL INK　植物油インキを使用しています。